

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
リベラルアーツ学群		夜・通信	947	88		1035	13	
芸術文化学群		夜・通信		377		1324	13	
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	夜・通信		28		975	13	
	アビエーションマネジメント学類	夜・通信				975		
健康福祉学群	社会福祉学専攻	夜・通信		21	2	970	13	
	精神保健福祉学専攻	夜・通信			26	994		
	健康科学専攻	夜・通信				968		
	スポーツ科学専攻	夜・通信				968		
	実践心理学専攻	夜・通信			6	974		
	保育学専攻	夜・通信			35	1003		
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	夜・通信				947	13	
航空学群	フライト・オペレーションコース	夜・通信		36	54	1037	13	
	航空管制コース	夜・通信			50	1033		
	航空機管理コース	夜・通信			36	1019		
	空港管理コース	夜・通信			42	1025		

教育探究科学群		夜・通信		17		964	13	
(備考) 航空学群の整備管理コースは 2024 年度より、航空機管理コースに名称変更した。空港マネジメントコースは 2025 年度より、空港管理コースに名称変更した。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/menu.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人桜美林学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

桜美林学園 HP に掲載（学園 HP トップページ > 情報公開 > 理事・監事一覧）
<https://www.obirin.jp/disclosure/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株) Indigo Blue 代表取締役	2024年度定時評議員会(2025年5月31日開催)の終結の時～2028年度定時評議員会(2029年6月下旬開催予定)の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	津田塾大学学長	2024年度定時評議員会(2025年5月31日開催)の終結の時～2028年度定時評議員会(2029年6月下旬開催予定)の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	毎日新聞出版(株)相談役	2024年度定時評議員会(2025年5月31日開催)の終結の時～2028年度定時評議員会(2029年6月下旬開催予定)の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	(学) 逗子開成学園理事長	2024年度定時評議員会(2025年5月31日開催)の終結の時～2028年度定時評議員会(2029年6月下旬開催予定)の終結の時まで	組織運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業担当教員がシラバスを登録した後、各教育組織長が点検を行う。 点検終了後、ポータルシステム「e-Campus」およびウェブサイトにて公開する。 3月に翌年度春学期および秋学期のシラバス登録期間を設け、各教育組織長点検後、3月末に公開する。3月の時点で担当者が決定していない秋学期の授業、または秋学期の内容に変更が生じた授業のシラバスについては7月に登録期間を設け、各教育組織長点検後、8月末に公開する。	
授業計画書の公表方法	https://www.obirin.ac.jp/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各科目の単位修得には、次の諸条件を満たす必要があります。 1. 年度または学期、クォーター初めに履修登録をすること。 2. 登録した科目の授業に3分の2以上出席し、試験を受けること。試験はレポート提出等を含みます。 3. 授業料その他の学納金を所定の期日中に納入していること。 4. 成績は、A・B・C・D・Fの5段階によって評価し、A～Dを合格として単位を与えます。Fは不合格として単位を与えません。SまたはUでの評価が認められている場合は、Sを合格として単位を与えます。Uを不合格として単位を与えません。TCの評価が認められている場合は、他大学等で修得した単位等を本学の修得単位として認定します。 5. 授業ごとに評価基準をシラバスに記載し、具体的な評価内容から達成目標への到達度合を計り評価する。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 予め設定した以下の方法により GPA を算出している。 「A」「B」「C」「D」「F」の5段階の成績評価に、次のとおりグレードポイント (Grade Point) を付す。 A=4.00 B=3.00 C=2.00 D=1.00 F=0 履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出したものが GPA となる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.obirin.ac.jp/about/grade_point_average.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定の方針は、「卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)」として、ホームページに公開している。 各学群で定めたディプロマ・ポリシーと科目の関連度を科目別に設定し、シラバス入力時にディプロマ・ポリシーとの対応関係を明示することで、その内容が自動的にシラバス上に表示される運用を計画している。これにより、シラバス作成時や内容確認の際には、ディプロマ・ポリシーとの整合性が適切に反映されているかを厳正に確認できる体制が整備される。 また、シラバスを参照する学生にとっても、各科目が大学や学群のディプロマ・ポリシーのどの要素と対応しているかが明示されることで、ディプロマ・ポリシーを意識した履修設計が可能となり、自身の学修成果を主体的に構築することができる。 ＜適切な実施に関する規定等について＞ 卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、「桜美林大学履修規則」第35条並びに第36条にて卒業の認定について、原則として4年以上在学し、所属する学群で定めるところにより124単位以上を修得し、かつGPAが1.50以上であることを定めている。 所属する学群による定めは、「履修ガイド」において各学群が「卒業要件」として定める所定の科目、区分の単位数を修得することと定めている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	＜方針の内容＞ https://www.obirin.ac.jp/about/policy.html ＜履修ガイド＞ https://www.obirin.ac.jp/campus_life/registration_guide.html ※桜美林大学学則、桜美林大学履修規定は、各年度履修ガイド＞参考資料にて公開

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	桜美林大学
設置者名	学校法人 桜美林学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
財産目録	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
事業報告書	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書 対象年度:2004年度～2025年度)
公表方法:学校法人桜美林学園 Web サイトの「事業計画・事業報告・財務状況」ページで公表している。 https://www.obirin.jp/disclosure/financial.html
中長期計画(名称:第4次中期計画 対象年度:2025年度～2028年度)
公表方法:学校法人桜美林学園 Web サイトの「桜美林学園 長期ビジョン・中期計画」で公表している。 https://www.obirin.jp/100th/vision/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:桜美林大学 Web サイトの「自己点検・評価/大学機関別認証評価」ページで公表している。 https://www.obirin.ac.jp/about/self_inspection.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:公表方法:桜美林大学 Web サイトの「自己点検・評価/大学機関別認証評価」ページで公表している。 https://www.obirin.ac.jp/about/self_inspection.html また、公益財団法人日本高等教育評価機構の Web サイトに、直近(令和元年度)の評価結果が公表されている。 https://www.jiheer.or.jp/search/result_report.php?fyear=2019

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	リベラルアーツ学群
教育研究上の目的（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01 ）	
（概要） リベラルアーツ学群は、広範な知識と深い専門性に裏付けられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身につけた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係る教育等を行います。	
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/policy.html ）	
（概要） リベラルアーツ学群は、多文化理解を推し進め、一つの専門性だけにとらわれない学際的思考を駆使し、優れた分析・表現力をもって学問を通じた社会貢献を行う、国際性を有した「自立した学習者」（Independent Learner）を育成します。 この基本理念を実現するため、本学群では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人(がくじじじん)(学びて人に仕える)」に結びつくようになっています。	
（1）国際性と多文化理解 国内外でグローバル化が進む現代において、アジア言語を含む多言語の語学力、他者とのコミュニケーション力、優れた国際性を身につけ、マイノリティに配慮しながら、文化・宗教・民族が異なる人々の相互的な多文化理解を推し進める能力を備えること。	
（2）学際的思考 本学群の提供するいずれかの専門的・体系的な知を自らの拠って立つ足場としながら、他の専門分野に対する理解や文理にまたがる専門横断的な知見、俯瞰的な視野をあわせもち、一つの専門性だけにとらわれない自由な学際的思考を行う能力を備えること。	
（3）分析・表現力 様々な問題を分析するために必要な文献読解力、情報リテラシー、数量的スキル、論理的・批判的思考力などの分析力と、分析内容を文章やプレゼンテーションで他人に分かりやすく伝える表現力を兼ね備えること。	
（4）学問を通じた社会貢献 現代世界が直面する様々な問題に対して、果敢に挑む心、異なる学問的足場をもった人々と共に多角的・総合的に取組む協働性、学んだことを社会に還元して解決の方向性を示すことができる実践力・応用力を備えること。	
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/policy.html ）	

(概要)

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的な取り組みとして、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎科目」、「LA 専門科目」、「自由選択」の4つの区分に編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせて開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング(科目ごとの関連性や難易度を示す)」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。なお、このような教育課程の編成、学修方法・学修過程、ならびに学修成果の評価の在り方については、以下のように定めています。

(1) 教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目です。カリキュラム内容は「コア科目」、「外国語科目」を中心にしています。「コア科目」では、英語コア科目、キリスト教入門、アカデミックライティングⅠ、アカデミックプレゼンテーション、コンピュータリテラシーⅠ、数的思考と論理、リベラルアーツセミナーで構成され、学園の建学の精神をはじめとする教育目標を具現化するための知識とスキルを修得します。上記のうちリベラルアーツセミナーでは、本学群の学びについての理解を深め、Independent Learnerとしての自覚を持つとともに、大学での学びのために必要な知識と学修スキルを修得します。

②「専門基礎科目」は、専門科目へ進むための足場を固める科目です。カリキュラム内容は「LA 専門基礎科目」、「実践基礎科目」、「アカデミックスキル科目」に分かれます。

「LA 専門基礎科目」では、各学問領域の基礎について学修します。学問領域は、人文学の領域(人文領域)、社会科学の領域(社会領域)、自然科学の領域(自然領域)の3つに分類され、各領域の専門基礎(人文基礎、社会基礎、自然基礎)から「LA 専門基礎科目」は構成されています。これらの学修を通し、各学問領域に関する基礎知識を学び、自らの専門とするプログラムの選択に向けた準備をします。また、入学時に選択した領域(自領域)の「LA 専門基礎科目」を多く修得することで、領域特有の課題解決方法の基礎を身に付けると同時に、それ以外の領域(他領域)の科目も学びながら、各学問領域の魅力や違いと多角的アプローチの重要性を学びます。

③「LA 専門科目」は、「LA 専攻科目」、「課題探究・実践科目」から構成されます。LA 専攻科目は、専門的な知識をさらに高めるために用意された科目です。本学群では、以下の専門型プログラムが提供されています。人文領域のプログラムとして、文学、言語学、哲学、宗教学、心理学、コミュニケーション学の6プログラム、社会領域のプログラムとして、歴史学、文化人類学、法・政治学、経済学、社会学、教育学の6プログラム、自然領域のプログラムとして、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5プログラムがあります。また、複数の学問領域の知識を必要とする課題の解決を目的として統合領域が設けられ、以下の統合型プログラムが提供されています。国際協力、アメリカ研究、アジア研究、日本研究、環境学、メディア・ジャーナリズム、博物館学、多文化共生、地域デザイン、データサイエンス、科学コミュニケーション、ビッグヒストリー、言語教育、現代ポップカルチャー、ジェンダー研究の15プログラムです。幅広い学びを通じた多角的視野の育成と判断力の養成という目的を達成するために、学生は2年次に、これらのプログラムの中から少なくとも1つのプログラムをメジャー、もう1つのプログラムをマイナーとして選択し、卒業までに認定される必要があります。さらに、「課題探究・実践科目」として、各分野に関連する課題を深く掘り下げながら解決方法について考察する専攻演習と、実践的な活動により社会課題について理解する探究サービスラーニングが提供されます。学生は、少なくとも専攻演習Ⅱまたは探究サービスラーニングのいずれかを修了することで、課題解決力や実践力のさらなる向上を目指します。

④「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、基礎教育科目や専門科目をさらに学修したり、学内外の授業科目の中から選択履修したりするこ

とができるようになっていきます。教職教育科目、資格関連科目、留学関連科目もここに含まれます。さらに、他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目を修得することで、自身の知識の幅を広げることが可能になります。

（2）学修方法・学修過程

①「基礎教育科目」の「コア科目」は、主として1年次に履修し、大学での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。「基礎教育科目」の「外国語科目」は、「語学を身につけた国際人の育成」という学園の建学の精神の実践から、16言語の外国語を選ぶことができます。「基礎教育科目」では、特に世界共通語となっている英語に力を注いでおり、日本語を母語とする学生は全員が入学当初よりプレースメントテストなどによって、習熟度別に編成されたクラスで段階を踏んで学修することができます。

②「専門基礎科目」は、主として1～2年次に履修し、学群での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。特に「LA 専門基礎科目」は人文基礎、社会基礎、自然基礎の3分野の授業が用意されます。自領域のLA 専門基礎科目を10単位以上学修することで専門科目に進むために必要な知識を修得するとともに、他の領域のLA 専門基礎科目をそれぞれ4単位以上学修することで、リベラルアーツ学群として学んでおくべき幅広い基礎知識の修得と、多角的・学際的視野の育成が計画されています。さらに、「実践基礎科目」では実践的な環境の下で学びを深めるサービسلーニングの基礎科目が提供されます。これらの導入教育を通じて、幅広い基礎知識を身につけると共に、プログラムの選択に向けて自らの専門性を高めるための情報と理解力を得ることができます。

③「LA 専攻科目」は、リベラルアーツ学群の教育の中核をなすものであり、32のプログラムから構成されています。各プログラムは、人文領域、社会領域、自然領域、および統合領域のいずれかの領域に分類されます。各プログラムはその分野の専門性を高めるための多くの科目から構成され、必修科目や選択必修科目が指定されています。メジャー指定されているプログラム(教育学、現代ポップカルチャー、ジェンダー研究を除いた29プログラム)において32単位以上を修得すれば、卒業要件の一つであるメジャー認定を受けることができます。学生は自由にメジャーを選択することが可能であり、2年次秋学期に登録します。また、すべてのプログラムにはマイナープログラムが用意されています。マイナーは指定された科目を16単位以上修得すれば、認定されます。そして、メジャーに認定されたプログラムの一つとは異なる領域のプログラムを少なくとも一つ選択し、マイナーまたはメジャーの認定を受けることが卒業要件（メジャー・マイナー認定）になっています。このような複数のプログラムをメジャー及びマイナーとして自由に選ぶことで、リベラルアーツ教育の特長である幅広い知識と多角的視野を身につけることができます。「課題探究・実践科目」においては、少なくとも専攻演習または探究サービسلーニングのいずれか一つを3年次以降に選択し修了することが卒業要件となります。この「課題探究・実践科目」を通して、自ら課題を発見し解決方法を考察する過程を経験し、探究力や実践力を身につけることができます。「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、基礎教育科目や専門科目をさらに学修したり、学内外の授業科目の中から選択履修したりすることができるという仕組みです。教職教育科目、資格関連科目、留学関連科目、他学群の科目もここに含まれます。また、他大学等（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目の修得も含まれます。

④本学では、「アドバイザー制度」が設けられ、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する相談等をアドバイザーが担当しています。アドバイザーは各学年15人前後の学生を卒業まで継続して指導することが原則となっています。アドバイジングの内容は、学生自身の学修状況の確認や科目履修に関する学修指導等のアカデミックな内容が中心となります。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が互いに連携した学

修支援体制を整えています。

⑤本学群で教育課程の編成や実施方法を可視化するためのカリキュラム・マップ（ディプロマ・ポリシーの各項目をどのように育成しているのかを科目ごとに表形式にて表したものの）を用い、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにしています。また、リベラルアーツ学群として学生が身につけたい能力や知識の育成のために、「履修モデル集」を作成し公開しています。この「履修モデル集」では、各プログラムがそれぞれの領域に応じて、目標とする能力や知識を実現するために履修を推奨する科目群が明示される形式となっています。学生は、このモデル集を参考にして履修計画を作成することにより、効率的な学修が可能となります。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果とは、カリキュラム・マップ等により示された目標に関して履修者はどの程度到達したのかを示すものです。したがって学修成果はそれぞれの科目で設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示されています。また、ルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/policy.html）

（概要）

リベラルアーツ学群は、多文化理解を推し進め、一つの専門性だけにとらわれない学際的思考を駆使し、優れた分析・表現力をもって学問を通じた社会貢献を行う、国際性を有した「自立した学習者」（Independent Learner）を育成していきます。また、興味・関心や社会文化的背景の異なる多様な学生が集い、学び、知的刺激を与え合える教育の機会を提供します。そのため、本学群の学びは、幅広い学問に触れると同時に、本人の関心に応じて人文学、社会科学、自然科学のいずれかをより深く学び、掘って立つ足場、すなわち学問的基礎を修得することからはじまります。学生は、学問的基礎の修得を続けて各分野の専門性を深め、分析・表現力を養うと同時に、他の専門分野に対する理解や専門横断的な知見、俯瞰的な視野をあわせもち、一つの専門の枠にとらわれない自由な学際的思考を身につけていきます。加えて、学生は、留学やサービ斯拉ーニングなどの体験を通して、自らが深い興味関心を抱いた事柄や、関わりを持ったコミュニティや社会の課題と向き合い、国際性や多様な文化を理解する力、学問を通じた社会貢献ができる力を身につけます。以上の学修や経験を通して、未来を予測することが困難な時代の中で生きる力を養います。

【求める学生像】

学群の教育システムに共感し、学修や経験を通して、成長を望み、これからの時代に自らの学びと経験を以て、貢献しようとする人たちを国や地域を問わず求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (3) 広い分野の基礎的学力を持ち、人文学、社会科学、自然科学の領域・専門分野への強い関心を有する者
- (4) 新しい分野への探求心と新たな体験へ挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 芸術文化学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）

(概要) 芸術文化学群は、パフォーマンス・アーツ及びビジュアル・アーツの分野を幅広く追求し、アートの専門家として社会に通用するスキルを身につけた人材の養成等を目的として、総合的文化教育（芸術系分野）に係る教育等を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/policy.html）
(概要) 本学群は、それぞれの専修の専門領域における知識、技術、経験を獲得し、より豊かな人生と社会の実現に向けて芸術的な働きかけを行える人材を育成することを基本理念とします。この理念の実現のために、以下の能力と資質を体系的、段階的に身につけ、定められた在学期間に必要単位や通算 GPA1.50 以上を獲得する等、所定の卒業要件を満たした学生に「学士（芸術）」を授与します。 1) 芸術を理解し、愛する力（理解・愛情） 芸術が自分自身および広く人間や社会にとって何故必要なのかを深く理解し、言わば人生の道連れとして、実利に関わらずそれを愛することができる。 2) 芸術を形にし、届ける力（技術・経験） 自らの求める芸術を表現し、それを他者に届けるための基本的な技術と経験が身についている。 3) 芸術を自身と社会に役立たせる力（応用・実践） 身につけた芸術の力を自身や身の周りの人々の生活を豊かにするために反映させ、同時に社会の課題解決や協調と調和の実現のために役立たせることができる。 これらは次の能力・特性として表すことができます。 1. 社会的リテラシー 人間の本質と歴史を踏まえて、現代社会を生き抜き、これからの社会変化への対応を準備できること。 a. 社会問題への関心 b. 教養 c. 語学力 d. 倫理観 2. プロフェッショナル力 各専門領域における芸術的感性と思考力、知識と技術と経験を身につけて新しいことにも挑戦できること。 a. 専門知識 b. 技術力 c. 経験 d. 挑戦力 3. クリエイティブ&プロデュース力 常識や先入観に囚われない発想を生み出し、それを実現する筋道を立てて実践できること。 a. 探求力 b. 発想力 c. 計画力 d. 実践力 4. 社会価値創造力（学而事人力） 多様な他者と理解し合い協調することで社会課題の解決を試み、より豊かな社会づくりに貢献できること。

- a. 課題発見・解決力
- b. 協働・共生力
- c. 調整力
- d. 社会貢献力

これらを修めることで目指せる専門的人材は以下の通りです。

演劇・ダンス専修：

俳優、ダンサー、ミュージカル俳優、声優、テーマパークパフォーマー、演出家、劇作家、振付家、プロデューサー、舞台監督、舞台美術家、照明家、音響家、制作者、衣裳デザイナー、ワークショップデザイナー、ファシリテーター、ムービングデザイナー、芸術監督、劇場スタッフ、制作会社スタッフ、衣裳スタッフ、ヨガインストラクター、演劇ライター、マネージャー、ダンス専門用品店スタッフ、ゲームシナリオライター、演劇科・ダンス科教員、ダンス講師、研究者（大学院進学）

音楽専修：演奏家、作曲家、歌手、ミュージシャン、ミュージカル俳優、音楽プロデューサー、サウンドプログラマー、コンピュータプログラマー、PA エンジニア、音楽ライター、音楽企画マネジメント事務所、公共ホールスタッフ、福祉業界スタッフ、音楽出版業界スタッフ、楽器店スタッフ、ライブハウス運営スタッフ、音楽科教員、音楽講師、研究者（大学院進学）

ビジュアル・アーツ専修：グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナー、空間デザイナー、アートディレクター、プランナー、画家、立体造形作家、イラストレーター、Web デザイナー、プロデューサー、映像クリエイター、脚本家、構成作家、アニメーター、アニメーション作家、メディアアーティスト、カメラマン、映像編集オペレーター、美術科教員、学芸員、研究者（大学院進学）

また、芸術を学ぶことによって培われた能力・特性は、芸術の道に進む者にだけでなく、これからの時代の企業や公務員等にも有効なものとして必要とされています。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/policy.html）

（概要）

本学群の教育課程の方針は、各専修の領域を「広く」学ぶことから始めて、自らの興味と適性を改めて発見し、学年が上がるにつれて専門性を深めていくことに特徴があります。それは入学前の自分が決めたことではなく、今まで知らなかった多様な刺激を吸収する中で変化していく自分を通して、より深く学びたい専門分野を改めて発見しながら学修を進めることに大きな意義があると考えます。この基本方針に基づき、本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、以下の取り組みを実施しています。

（１）教育課程の編成

1. 教育課程は「基礎科目」、「芸術専門科目」、「自由選択」の３つの区分から構成され、「基礎科目」は「アカデミック基礎科目」と「カルチャー基礎科目」、「芸術専門科目」は「芸術スキルアップ科目」と「芸術キャリアアップ科目」から成ります。また、科目は講義、演習、実習、実技といった授業方法を組み合わせて開講しています。
2. 「アカデミック基礎科目」は、主として初年次教育科目が置かれ、「キリスト教理解」、「情報リテラシー」、「論理とコミュニケーション」、「外国語」の４つの領域で構成されます。「キリスト教理解」科目では本学が立脚しているキリスト教精神を創立者の理念と共に学びます。「情報リテラシー」科目は主にコンピュータのリテラシーとモラルを学びます。「論理とコミュニケーション」科目では文章における論理構成と話し言葉におけるコミュニケーションを学び、大学での学びに必要なスキルを身につけます。「外国語」

科目では国際人としてグローバル社会を生き抜く上で必須の英語を学びます。

3. 「カルチャー基礎科目」は、教養を幅広く身につけるための科目が用意されています。ここでいう「教養」とは、社会人として必要な広い文化的な知識というだけでなく、急激に変化し先が見えない時代を生き抜く上での拠り所や手掛かりになる知識や考え方を指します。この科目群は、「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」の3つの学問分野で構成されます。

4. 「芸術専門科目」は、各専修が扱う分野の専門性を高めるための科目群で、基礎から応用までを取りそろえています。理論に加え、実技、実習、演習科目が多く配置され、学生が目指す表現に必要な知識と技術の修得を目指します。「芸術スキルアップ科目」と「芸術キャリアアップ科目」から成り、前者は各専修の領域での学びを入門から基礎・応用へと深めていくもの、後者はその集大成へ向かうための科目群で、「専攻演習」、「卒業研究」および卒業後の進路を考える科目や海外留学準備のための科目等で構成されています。

5. 「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、カルチャー基礎科目を更に履修したり、他学群や他専修の科目を修得したりすることで、自身の知識の幅を広げることが出来ます。

(2) 学修方法・学修過程

1. 初年次教育 1年次には初年次教育として、主に「アカデミック基礎科目」と、各専修のどの領域にも必要な「入門」または「基礎」科目を学びます。これらは卒業要件に必要な必修科目であることが多く、1年次に履修し終えることで、2年次からの学修の幅が広がります。

2. 英語教育 英語は、国際人を育てることが桜美林学園の建学の精神であることから必修科目に設定されています。入学時には英語プレースメントテストを実施し、習熟度別のクラスに分かれることで、各自のレベルに応じた段階的な学修が可能です。また、3～4ヶ月の語学留学制度である芸術文化学群グローバルアウトリーチプログラム（芸文G0）が設けられており、学生は目標や関心に応じて、米国の大学内にある語学学校で芸術的な環境に身を置いて学ぶほか、自身が選択した国での異文化体験を通じて英語力を高めることができます。

3. 専門教育 「芸術専門科目」では講義、演習、実技、実習といった多様な方式の授業を開講していますが、中でも実技・実習教育に力を入れていることが大きな特徴の一つです。「アート」には技術という意味もあるように、自分の思いを形にするには技術が必須です。各専修の学びの中で新たに会える領域であっても、表現のための技術力を初歩から指導する教育が充実しています。どの領域の芸術にとっても、それが身につくためには知識、技術、経験が揃っていることが大切だと考えます。

4. カリキュラム・マップとナンバリング 学群で開講する各科目の目的、修得する知識・技能の関連性を図示したカリキュラム・マップにより、教員と学生が可視化されたカリキュラムを共有することができます。これによりカリキュラム全体を俯瞰することができ、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。また、科目の学修段階や履修の順序を示すナンバリングや先修条件等を設けて、基礎から応用へと学生自身の成長に合わせて体系的、段階的に学べるように設定しています。

5. 学而事人 学園のモットーである「学而事人」を実践するアウトリーチ、市民参加企画、地域社会参加プログラム等も積極的に行っています。

6. キャリア教育 卒業後の進路は大きく分けて、①アーティスト、パフォーマー、クリエイター、②業界内就職、③一般企業就職や公務員等の道がありますが、「キャリアデザイン」科目ではこのすべてを視野に入れています。①の場合は「フリーランス」や「個人事業主」、「起業家」としての「表現者」を目指し、②の場合は修得した専門性を直接活かせる業界内就職、③は文字通り広く一般就職の支援を手厚く行います。また、「キャリアデザイン」だけではなく、インターンシップ（就業体験）を始め、多彩なキャリア開発関連科目が用意されています。

7. アドバイザー制度と履修指導 本学では「アドバイザー制度」が設けられ、学生一人ひと

とりの学修計画や履修登録に関する相談等をアドバイザーが担当しています。アドバイザーは主に履修登録時に担当する学生が、適切かつ効果的な科目を履修し、卒業できるよう学修指導を行います。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。

(3) 学修成果の評価の在り方

1. 学修成果とは、カリキュラム・マップにより示された目標に関して履修者がどの程度到達したのかを示すものです。従って学修成果は科目それぞれで設定されています。
2. 学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示されています。またルーブリック評価等を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/policy.html）

(概要)

芸術の創り手として作品やパフォーマンスを提供する人材のみならず、幅広い芸術活動を通じて社会の発展に寄与する人材は、人間文明の初期から現在まで変わらずに必要不可欠な存在です。特に時代の変換点に立つ現代社会では、様々な創作活動の中で行われる試行錯誤を通して、そのプロセスに潜在する「予測困難な問題」を見つけ出し、さらにはその問題を解決に導くことの出来る人材が必要とされています。

本学群では、「演劇・ダンス」「音楽」「ビジュアル・アーツ」というそれぞれの領域において、人間の営みと密接な関わりを持つこのような芸術文化を理解し、その理論や歴史、表現を学ぶことで社会を構成する自分自身と多様な他者をより深く探求して共に生きる力を身につけようとする学生を求めます。

【求める学生像】

学群の教育の考えに共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを国や地域を問わず求めます。また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 創作活動や芸術鑑賞を通して、芸術の学術的な学びに求められる意欲と関心を有する者
- (3) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (4) 芸術、文化、人間、表現、コミュニケーション等に強い関心を持ち、創作活動やアートマネジメント等に積極的に挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 ビジネスマネジメント学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）

(概要)

ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類は、国際社会に必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の養成等を目的として、幅広い職業人養成に係る教育等を行います。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/policy.html）

(概要)

本学群は、「国際性」に優れ、「奉仕の精神」と「おもてなしの心」、「コミュニケーション能力」と「情報リテラシー」を兼ね備え、ビジネス実務において優れた「マネジメント能力」を有し、社会の問題を他人事として放置しない“高度なビジネスパーソン”を育成します。

そのため、本学群では、本学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた上で、定められた課程において以下の能力・資質を修得し、建学の精神である「学而事人(がくじじじん) (学びて人に仕える)」にしたがって、体得した知識を総合的に活用できる学生に対し、卒業を認定し学位「学士(経営政策学)」を授与します。

(1) 倫理観

“高度なビジネスパーソン”としての常識とマナー、倫理観とモラルを備えていること。

(2) 論理的思考力・自己管理能力

ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、絶えず学修して専門性を高める努力することができること。

(3) チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織のなかで協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

(4) 問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感じ、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

(5) 異文化に対する理解とコミュニケーション能力、情報リテラシー

異文化を理解してより広い視野に立ち、国際的ビジネスセンスのある語学力と様々な情報を有効活用できる能力を備えること。

本学群のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

- ①「基礎教育科目」44単位を修得していること。
- ②「専攻科目」の「専門基礎科目」10単位以上、「実習・演習科目」2単位以上、「論文・レポート科目」2単位以上を修得していること。
- ③「専門応用科目」のビジネスプログラムもしくはマネジメントプログラムから1つを選択し、選択したプログラムに属する科目群から選択28単位、もう一方のプログラムに属する科目群から選択14単位を修得していること。
- ④「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに学生が自由に選択した単位を加え合計124単位を修得し、かつ通算GPAが1.50以上であること。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:

https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/policy.html)

(概要)

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング(科目ごとの関連性や難易度を示す)」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。本学群では、様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、以下の基本方針をもとに、高度な学力と専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。

(1) 教育課程の編成

- ①国際性豊かな人材の養成に向けて、本学群独自の4ヵ月間の留学やテーマ別の短期の海外ビジネス研修により、海外に出て学ぶ機会を設けるとともに、キャンパスライフを通し

て国際感覚を身につけることができる学修環境を整えています。同時に、自分の将来設計に合わせた語学力、とりわけビジネスの国際共通語である英語力の修得に向けた多様な学修機会を提供します。

②奉仕の精神に、おもてなしの心を織り交ぜた、高度な職業感覚を修得するため、多数の講義科目によって理論のベースを構築し、そのうえで、豊富に取り揃えている実習・演習、専攻演習によって実践を通して学んでいきます。

③授業科目は、教員の一方的な講義に留まらず、課題レポート作成、学生の発言やプレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニング、反転授業の要素を積極的に取り入れています。「専攻演習」は、学生主体の様々な活動のなかで、リーダーシップとフォロワーシップを理解し実践する機会となり、コミュニケーション能力を醸成します。同時に、学びのなかで、各種の情報機器を駆使しながら、情報の収集・分析・活用・発信などの情報リテラシーを修得することができます。

④ビジネスの現場に即した理論と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく学べるようカリキュラムを構成しています。特に、学生の多様な将来設計にあわせて、それぞれ独自の科目履修ができるよう体系化しています。

⑤様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、以下のようカリキュラムを構成しています。

「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

ア) 「学群指定科目」：本学の建学の精神や大学における学修の基礎を学びます。

イ) 「外国語科目」：ビジネスの現場に必要な実践的な語学力（英語）の修得を目指す科目です。英語については「TOEIC®」600点を卒業時の達成目標とします。

ウ) 「ガイダンス科目」：学群の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

「専攻科目」は下記の通り構成しています。

ア) 「専門基礎科目」：専門的技能の修得に向けた経営の基礎学力向上を目指す科目です。

イ) 「専門応用科目」：ビジネスパーソンに必要な特定範囲の専門的学力・能力をバランスよく修得できるよう、科目全体をまず知識・技能、業種・業界（ビジネス）そして職種・機能（マネジメント）の視点から、ビジネスプログラムとマネジメントプログラムに大別し、それぞれをさらに各4種類に分けた、合計8種類の科目群を設定しています。

ウ) 「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。

エ) 「論文・レポート科目」：学修成果の集大成として、研究視点で論文をまとめる、あるいはビジネス視点でレポートをまとめる能力の修得を目指す科目です。

オ) 「学群共通科目」：各領域に共通する科目（「専攻演習」、「特別講義」など）です。

カ) 「BM Global Lounge 科目」：Inbound セクションの Global Cooperate Citizenship プログラムに関する科目です。

（2）学修方法・学修過程

①本学群の「専門応用科目」は、「ビジネスプログラム」と「マネジメントプログラム」の2つのプログラムで構成されています。「ビジネスプログラム」は、特定の業種・業界に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、特定の業種・業界で働いているイメージを強く持っている学生に適しています。これに対して「マネジメントプログラム」は、経営における特定の機能や職種に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、企業の特定の部署で働いているイメージを持っている学生や、まだ自分の将来の職業像を確立していない学生に適しています。

②学生の多様な将来目標に応えるために、科目履修の仕方を多数の「学修ストーリー」に

まとめて提示しています。

(3) 学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化することと厳格に評価するようにします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/policy.html）

（概要）

「国際性」に優れ、「奉仕の精神」と「おもてなしの心」、「コミュニケーション能力」と「情報リテラシー」を兼ね備えた人材を育成します。

さらに、所属する企業や各種機関、コミュニティにおいて、予測不可能な様々な課題に向き合い、「マネジメント能力」を駆使して、積極的に課題解決に取り組むことのできる力を身につけさせます。

特に、学修過程においては、理論と実践のバランスのとれた「マネジメント能力」を養うためにインターンシップ等の実習体験を積極的に展開していきます。

【求める学生像】

学群の教育の考えに共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを国や地域を問わず求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- (1) 高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- (2) 自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- (3) 社会の出来事、国や地域、企業などの取り組みに強い関心を有する者
- (4) 社会と積極的に関わりを持ち、様々な課題に対して挑戦する意欲を有する者
- (5) 建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 健康福祉学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）

（概要）

健康福祉学群は、専門領域における確かな知識・技術を身につけ、人々の願い、悩み、喜びに共感できる、感性豊かな人間性をそなえた健康と福祉のエキスパートの養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行います。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/policy.html）

(概要)

健康福祉学群では、すべての人々の健康的な生活を実現し、福祉を向上することにプロフェSSIONナルとして貢献できる人物を育成します。

【目指す学生像】

健康と福祉についての専門的な知識とスキルを身につける。

すべての人々の願い、悩み、喜びに共感できる豊かな人間性をもつ。

多様な価値観の存在を認め、論理的思考に基づいて他者と積極的に協働できる。

大学での学びを、自身の心身の健康増進とともに、対人支援・社会貢献に活用できる。

この目的を実現するため、本学群では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。

また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人(がくじじじん)(学びて人に仕える)」に結びつくようになっています。

(1) 健康と福祉及びその関連領域に関する知識・理解

基本的人権を尊重し、一人ひとりを異なる存在として認め、グローバルな視点に立ち、多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与するための知識を身につけることができる。

(2) すべての人々の健康と福祉に寄与できるスキル

多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与するためのスキルを身につけ、その人にとって最適な支援ができる。

(3) 人間理解とコミュニケーション能力

多様な文化・社会的背景をもつすべての人々への理解を深めるとともに、自他の尊厳を認め、自己と他者の感情や思考を的確に理解し、自己を適切に表現するコミュニケーション能力を身につけ、活用することができる。

(4) カウンセリング・マインド

人の気持ちを受け止め、相手の立場に立って理解しようとする姿勢・態度を身につけることができる。

(5) 課題探求・解決能力

課題に直面した際の対処に役立つ情報収集力、論理的・批判的思考能力を身につけ、活用することができる。また、学び続ける姿勢を持ち、自らの強みを育み、それを最大限活用して課題を探求し、解決に向け前進することができる。

(6) チームワークとリーダーシップ

共通の目標を達成するために、チーム全体の力が最大限に発揮されるよう、他者と協働する姿勢、態度を身につけることができる。また、そのためにリーダーシップをもって自らの役割を果たすことができる。

(7) 倫理観と自己管理能力

すべての人々の健康と福祉の実現のために、倫理観をもち、自らを律して行動し、社会の発展に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/policy.html）

(概要)

本学群は、「健康・スポーツ領域」「福祉・心理領域」「保育領域」の3つの学問領域を対象とし、価値観や文化・社会的背景の違い、障がいの有無にかかわらず、すべての人々が生涯にわたって心身の健康を維持し、生活の質を向上できるよう支援する学びを目的としています。健康科学・スポーツ科学・社会福祉学・精神保健福祉学・実践心理学・保育学の6つの専攻は、各領域で身につけられる専門分野を示します。

「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的な取り組みとして、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「自由選択」の4つの区分に編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせて開講しています。また、カリキュラムの体系化のためにメジャー・マイナープログラムの提供と科目の「ナンバリング（学問領域や難易度を示す）」を行い、体系的な学修に役立つようにしています。

このような教育課程の編成、学修方法・学修過程、ならびに学修成果の評価の在り方については、以下のように定めています。

(1) 教育課程の編成

本学群の教育課程は、「1. 基礎教育科目」、「2. 専門基礎科目」、「3. 専門科目」、「4. 自由選択」、「5. メジャー・マイナープログラム」によって、総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナル育成が可能な構成となっています。

①「基礎教育科目」

主として1年次に履修し、大学の学び・生活へと移行する基盤をつくり、それに主体的に取り組む姿勢と基礎的スキルを養成するための科目です。「コア科目」、「外国語科目」で構成されます。

1) コア科目

「キリスト教と建学の精神」「文章表現」「コミュニケーションの基礎」「コンピュータリテラシーⅠ」「基礎ゼミナール」で構成され、学園の建学の精神をはじめとする教育目標を具現化するための知識とスキルを修得します。

「コミュニケーションの基礎」

口話による主体的な発信力(プレゼンテーション能力)や、対人援助の前提となる、基礎的かつ汎用性のあるコミュニケーションの知識と技術を学びます。他者との対話を通じて、他者と自己を理解し、他者の支援に役立つ力を身につけます。

「基礎ゼミナール」

本学群生の学生生活が充実したものとなるよう、大学の学修に自信をもって取り組むための準備を行います。自らの目標を設定し、中・長期的な計画を立て、どのように大学生活を送っていくのかを考えます。そのために、大学での学びとその方法、学生生活での困りごとの解決の仕方、学修を進めていく上で仲間と協力することの大切さを知ることができるよう、アドバイザークラス別、専攻別、学群全体会を通じて体験的に学びをすすめています。

2) 外国語科目

「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」では、基礎的な内容を徹底的に学び、発展的な実用英語の学習に進めるようにします。発展的な英語学習や留学を希望する学生には、「応用英語」を用意しています。また英語技能の修得だけを目的とせず、楽しんで英語や異文化を学ぶための「健康福祉の英語」では、海外の文化や生活なども題材として取り入れ、留学や大学院進学への橋渡しとなるようにします。

②専門基礎科目

主として1～2年次に履修し、学群での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。各学問領域に関する基礎知識を学ぶ「人文科学領域」科目、「社会科学領域」科目、「自然科学領域」科目、「複合領域」科目と、「実践基礎科目」に分かれます。専門基礎科目の学修を通し、各学問領域に関する基礎知識を学び、自らの専攻やプログラムの選択に向けた準備をします。

1) 人文科学領域科目、社会科学領域科目、自然科学領域科目、複合領域科目

基礎的な知識・技能を学修し、各専門領域の基本的考え方、対人援助職に必要な汎用的な知識・技能を学びます。人文、社会、自然科学、また複合領域について各領域最低2単位の履修を必修とし、4領域をバランスよく学ぶことにより、様々な視点からの人間理解を身につけます。

2) 実践基礎科目

実地の体験を通じた学修の機会となる「フィールドワーク」科目で構成されます。自分とは世代、文化、個性を異にする様々な人々とのフィールドにおける直接的な交流を通してチームの中で自ら考え行動する体験を得ることができます。地域住民、子ども会、障害者関連団体等との連携による、「居場所・遊び場」をつくる機会や異世代間の交流の場、食を通じたつながり、スポーツ・運動を通じた地域の人々の健康づくり等、多彩なプログラムを用意しています。多様な価値観を共有し、視野を広げることで、専門教育への学びの動機を高めていきます。また、海外をフィールドとした福祉や教育、スポーツの理解を深めるプログラムも用意し、4年間の在学期間中に海外での体験が短期間でも可能になるようにしています。

③専門科目

「専攻科目」と「課題探究科目」から構成されます。

1) 専攻科目

「基礎教育科目」、「専門基礎科目」で得た知識・技能を踏まえ、専門的な知識をさらに高めるために用意された科目群です。「健康科学」、「スポーツ科学」、「社会福祉学」、「実践心理学」、「精神保健福祉学」、「保育学」の6つの専門分野から構成され、専門基礎科目群を踏まえて専門的理論や技能を深めます。また、演習・実験・実習・実技科目があり、現場での経験を積む科目も設置されています。

2) 課題探究科目

「専攻演習」や「卒業論文」、「卒業研究」といった、自己の関心のある研究で学修の集大成を目指す科目も設置しています。さらに実践基礎科目のフィールドワークで感じた疑問を解決するために、社会として何が必要か、自らが何ができるかを実際に地域の人々と関わりながら考える、課題探究型のフィールドワーク科目も用意しています。専門的な学修と、実社会のつながりを経験することによって各自が学びを深化させ、キャリア形成にも役立つようにしています。

④自由選択

上記1～3の科目群以外に、多様な関心や目的に応じて自らが学びたい科目を履修することが可能です。本学群が設置している専門基礎科目や専門科目を卒業要件単位数を超えて学修したり、学内外の授業科目の中から選択履修したりすることができます。

他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目を修得することで、専門性をさらに高める、あるいは知識の幅を広げることが可能になります。

⑤メジャー・マイナープログラム

学位授与方針に掲げられるすべての資質能力を総合的に養うための科目群として、6 つのメジャープログラムと、12 のマイナープログラム（6 つのマイナープログラムⅠおよび 6 つのマイナーⅡプログラム）を設置しています。メジャープログラムおよびマイナープログラムは、専門基礎科目および専門科目から構成されます。

1) メジャープログラム

36 単位で構成され、自身が身につけた専門性を明示する一連の科目群であり、授与する学位の種類と結びついています。

2) マイナープログラム

各 20 単位で構成され、A) 主専攻（メジャー）に近接する分野のうちひとつを副専攻として学ぶためのプログラム（マイナーⅠ）と、B) 健康と福祉およびその関連分野に学びを拡げるための領域横断型プログラム（マイナーⅡ）が編成されています。

メジャープログラムの専門的な学びを深めると同時に、関連領域を学ぶマイナープログラムを組み合わせることで、広い視野を持って「健康と福祉」の知識、スキルを獲得することを目的としています。

<6 つのメジャープログラム>

1. 健康科学
2. スポーツ科学
3. 社会福祉学
4. 精神保健福祉学
5. 実践心理学
6. 保育学

<6 つのマイナーⅠプログラム>

1. 健康科学
2. スポーツ科学
3. 社会福祉学
4. 精神保健福祉学
5. 実践心理学
6. 保育学

<6 つのマイナーⅡプログラム>

1. ソーシャルワーク
2. 高齢者支援
3. コミュニティデザイン
4. スポーツと福祉
5. 健康支援の心理
6. 子ども支援

(2) 学修方法・学修過程

①卒業要件

基礎教育科目 14 単位以上、専門基礎科目 16 単位以上、専門科目 44 単位以上を修得するとともに、メジャープログラム（1 つ以上）およびマイナープログラム（1 つ以上）を修了しなければなりません。ただし、メジャープログラム 2 種以上を修了することで上記に代えることができます。

②メジャーとマイナープログラムの履修

6 つのメジャープログラムから 1 つ（主専攻となります）と、12 のマイナープログラム（マ

イナーⅠプログラム6つ・マイナーⅡプログラム6つ) から1つ以上を選択(ただしメジャープログラムと同一名称のマイナープログラムは除く) します。各メジャーおよびマイナープログラムとして指定された科目群からメジャー(36単位以上)、マイナーⅠ・Ⅱ(20単位以上)を修得します。

入学時に選んだ領域と専攻が本当に自分に合っているかを学びながら確認し、卒業までの学修を計画します。2年次秋学期(4セメスター次)開始時に1つの専攻(メジャープログラム)を確定し、同時にマイナーⅠ・Ⅱから1つ以上のマイナープログラムを選択します。ただし、主専攻と同名のマイナーⅠについては登録できません。

卒業予定学期(最終学期)の定期試験期間最終日がメジャー(2つ目以降)またはマイナープログラム登録および変更(追加・削除)の最終機会となります。登録したプログラムが指定する科目を修得できている場合には、卒業時に学位記とともに渡される「メジャー・マイナー修了証」に修了したプログラム名が記載されます。

③「フィールドワーク(国内)」・「フィールドワーク(海外研修)」の履修
複数のプログラムが設定されており、同一科目を複数回に渡って履修することが可能です。それにより複数のフィールド経験、または同一のフィールドで経験を積み、多様な価値観を共有し、視野を広げることが出来ます。

④専攻演習の履修

専攻演習(履修年次3年)は、「専攻演習Ⅰ」(2単位)、「専攻演習Ⅱ」(2単位)から成ります。通称「ゼミ」と呼ばれ少人数で進められます。自らの関心のある専門分野やテーマに基づきゼミを選択し、主体的に研究テーマを決めた上で、討論などを通して専門的な知識を深めます。討論や発表などを通じて研究成果を論理的に伝える力が高められます。

「専攻演習Ⅰ」は春学期に、「専攻演習Ⅱ」は秋学期に開講され、「専攻演習Ⅰ」・「専攻演習Ⅱ」とともに履修することが望まれます。「専攻演習Ⅱ」の先修条件として「専攻演習Ⅰ」が設定されています。「専攻演習Ⅰ」・「専攻演習Ⅱ」は、原則として同じ教員のもとで履修します。

4セメスター目の所定の期間に、履修を希望する専攻演習(ゼミ)への申請や選抜が行われます。

⑤「履修モデル」の活用

本学群では、各専攻の専門分野あるいは学問領域を横断して身につける能力や知識を修得するためのプログラム(メジャー・マイナープログラム)を提供しています。履修モデルでは、これらのプログラム同士や、プログラムと複数の科目を組み合わせることで身につく力の例を示しています。モデルを活用するとともに、自分自身の興味関心に応じてどのように組み合わせると良いかを考え、自らが学びたいことに最適な履修計画を立ててください。

ただし、時間割や抽選科目における履修者数制限の都合上、モデル通りに履修できない場合もあります。

組み合わせの例

- | | | |
|--------------|---|------------------------------|
| 1. メジャープログラム | × | マイナープログラム |
| 2. メジャープログラム | × | マイナープログラム＋専門科目 |
| 3. メジャープログラム | × | マイナーⅠ・Ⅱプログラム＋専攻演習 |
| 4. メジャープログラム | × | マイナーⅠ・Ⅱプログラム＋専攻演習＋卒業論文・研究 |
| 5. メジャープログラム | × | マイナーⅠ・Ⅱプログラム＋フィールドワーク(課題探究型) |

※マイナープログラムについては、マイナーⅠまたはマイナーⅡから1つ以上

⑥アドバイザー制度の活用

本学ではアドバイザー制度が設けられ、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する相談等をアドバイザーが担当します。アドバイザーは各学年15名前後の学生（アドバイザー）を卒業まで継続して指導することが原則となっています。アドバイジングの内容は、学生自身の学修状況の確認や科目履修に関する学修指導等のアカデミックな内容が中心となります。

1年次のコア科目（必修）の1つである「基礎ゼミナール」は、各アドバイザー教員が担当する15名前後のアドバイザーのグループ（クラス）単位で活動します。アドバイザーは、クラスの担当教員として、出欠管理、課題対応等、基礎ゼミナールの窓口となります。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」が示している学修成果目標に対して、履修者がどの程度到達できたかを示すものです。科目ごとに、こういった学修成果に重点を置いているかをカリキュラムマップ等で示しています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示されています。また学修成果に対する評価基準を明示することによって成績評価を可視化し、厳格に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/policy.html）

（概要）

少子高齢社会や多様で高度な福祉ニーズに対応できる、健康と福祉のプロフェッショナル育成を目的としています。専門職として活躍するためには、乳幼児から高齢者までの人間の成長、発達や生活に関心を持ち、一つの専門領域にとどまらず、広い範囲の知識や技術を身につけ、多角的な観点から総合的にものごとを考える力が必要となります。

グローバル社会においては、多様性の尊重は基本理念であり、人々の願い、悩み、喜びに共感できる人間性を備え、様々な立場の人を理解し、受け入れ、共生社会の実現に貢献する実践家であることが期待されます。

そこで、学群に、「健康・スポーツ領域」「福祉・心理領域」「保育領域」の3つの学問領域、6つの専攻（健康科学・スポーツ科学・社会福祉学・精神保健福祉学・実践心理学・保育学）を配置し、マイナープログラムと併せて、自らが興味関心を抱いた専門的な学びを深めるとともに、関連領域にも学びを発展させます。

4年間の学生生活では、知識・理解を深める学びにとどまらず、体験的・実践的な学びを積み重ねることにより、社会の課題を解決する実践力を身につけます。

【求める学生像】

学群の教育の考えに共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを求めます。

また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

- （1）高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者
- （2）自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者
- （3）人々の健康、こころ、からだ、福祉に強い関心を有する者
- （4）社会と積極的に関わりを持ち、様々な課題に対して挑戦する意欲を有する者
- （5）建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 グローバル・コミュニケーション学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）

(概要) グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類は、語学に長け、コミュニケーション能力が高く、分析や創造を伴う思考力と問題解決に向けた計画力や実行力を有する人材の養成等を目的とし、協働活動を通してグローバルリーダーシップの基礎基本を修養できる教育等を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/policy.html）
(概要) 本学群は、複数の言語における高度なコミュニケーション能力およびグローバル社会で役立つ専門知識を生かし、自らが関わるコミュニティの多文化共生の実現に貢献する能力を身につけた人物を育成することを目的としています。具体的には、グローバル化した社会で増えている多文化が共存するコミュニティの中で、言語の壁を超えた高いコミュニケーション能力と専門知識を生かして異文化間の架け橋となり、コミュニティにおける欠かせない存在として、課題解決に向け、協働作業の中で自己の役割を堅実に果たせる人材を育成していきます。 その目的実現のために編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算 GPA1.50 以上、所定の卒業単位（「基礎教育科目」16 単位、「専攻科目」：「語学技能科目」40 または 48 単位（言語トラックによって異なる）、「グローバル・スタディーズ科目」44 または 36 単位（言語トラックによる）、その他自由選択、計 124 単位以上）を修得し、以下の要件を満たす学生に対し、本学の教育の基本理念と「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」に基づき、「学士（グローバル・コミュニケーション）」を授与します。 (1) コミュニケーションに関する知識およびスキル グローバル社会で通用する、高い実用レベルでの複数の言語におけるコミュニケーション能力を身につけている。 (2) 多文化・異文化に関する知識および理解 多文化共生、世界の言語・地理・歴史・社会制度・経済・政治・ジェンダーなどのテーマについて学ぶことで、世界の様々な事象を文脈の中でとらえ、多様な価値観に気づき、情報を鵜呑みにするのではなく客観的に選択し、幅広い視野で物事を考えることができる。 (3) 多様な社会における問題解決能力・チームワークに関する知識とスキル 多文化共生社会における諸課題に取り組むための専門知識を有し、協調性、主体性を持って、協働の中で自己の役割を果たすことができる。 (4) 市民としての社会的責任 キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材として、「学事而人（学びて人に仕える）」を実践することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/policy.html）
(概要) 「基礎教育科目」は大学での 4 年間の学修の土台を形成し、2 年次以降の専門科目を履修するための知識や技能の修得を目指すものです。基礎教育科目は、必修科目と選択必修科目により構成されます。必修科目として「キリスト教学入門」「論理とコミュニケーション」「データサイエンス」「自然科学入門」があります。また、選択必修科目としては「グローバル社会入門」「グローバル文化入門」「キャリアデザイン」「フィールドスタディーズ」があります。 「専攻科目」は、外国での大学教育にも十分対応できる能力を身につける「語学技能科目」

及び英語・中国語・日本語で授業を行う「グローバル・スタディーズ科目」から構成されています。

「語学技能科目」は英語、中国語、日本語に分かれており、入学前に選択した母語以外の言語を学びます。どの語学技能科目でも、次の4点を重視します。

1) スキル

4技能（聞く・話す・読む・書く）、デジタルリテラシー、テストスキル、アカデミックスキル

2) クリティカルシンキング

考える力（情報を取捨選択し、その背景を理解し、仮説を立て、情報を統合し、明確に伝える力）

3) 学修者オートノミー

振り返り、学修目標設定、学修計画、将来目標設定、スタディスキル

4) 異文化理解

時事問題、文化背景（歴史、宗教、習慣、伝統）、多様性の受容、新しい価値観の創造

「グローバル・スタディーズ科目」は、コミュニケーション学、社会学、経営学、政治学、言語学、文化人類学、歴史学、文化、芸術、ジェンダー、学際領域などの専門分野の科目を幅広く配置しています。3つの専修（パブリック・リレーションズ、言語探究、文化共創）から入学後に選択した専修の科目を32単位選択します。

「専門演習科目」は、1・2年次に習得した複言語・複文化能力を基盤に、各専修分野に関連する課題に取り組む科目です。少人数のゼミ形式で行われる「専攻演習Ⅰ/Ⅱ」と、学びを集大成する「卒業論文・卒業研究」から構成されています。

- ・基礎教育科目、専攻科目、専門演習科目、自由選択、合計124単位以上
- ・入学時からの通算GPAが、1.50以上

学修方法・学修課程

1：1～2年次は、「語学技能科目」として、入学前に選んだ英語・中国語・日本語のいずれかの目標言語を、実際に運用できるよう徹底的に学びます。

2：3または4セメスター目は原則として全員が留学します（日本語トラックの学生は希望者のみ）。

3：帰国後は、留学等を通じて向上した語学力を用いて、目標言語（英語・中国語・日本語）で開講される授業を受けることで、日本や世界の様々な問題や課題に関する理解を深めます。

4：グループワークを通じてイノベーションを生む能力やリーダーシップを醸成し、組織の中心になって活躍できる人材を育てます。本学群ではグループワークや、ディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れています。これにより、テーマに対して複数の領域や視点から総合的にアプローチする力を養います。

学修成果の評価の在り方

1：学修成果は、科目が掲げる到達目標を学生がどの程度達成したかを示すものです。到達目標は、科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

2：学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。

卒業に必要な単位数の内訳は次のとおりです。

トラック別カリキュラム・ポリシー

1. 英語トラック

英語トラックを選択した場合、卒業に必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、英語を第一言語とする（または英語が第一言語に準ずる）学生は、英語トラックを選択することはできません。

■基礎教育科目：必修科目 10 単位、選択必修科目 6 単位以上、合計 16 単位以上

■専攻科目：語学技能科目 40 単位、グローバル・スタディーズ科目 44 単位、合計 84 単位以上

語学技能科目（必修科目 16 単位、「特別英語 A」または「特別英語 B」から 4 単位必修。加えて、語学技能科目の英語トラック科目群から選択 20 単位以上）

※留学先で修得した単位も語学技能科目として認められる場合がある。

グローバル・スタディーズ科目（44 単位必修。そのうち、英語で開講される科目を 24 単位以上修得）

※44 単位の中に入学後に選択した専修が定める科目を 32 単位含める必要がある。留学先で修得した単位もグローバル・スタディーズ科目として認められる場合がある。

2. 中国語トラック

中国語トラックを選択した場合、卒業に必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、中国語を第一言語とする（または中国語が第一言語に準ずる）学生は、中国語トラックを選択することはできません。

■基礎教育科目：必修科目 10 単位、選択必修科目 6 単位以上、合計 16 単位以上

■専攻科目：語学技能科目 40 単位、グローバル・スタディーズ科目 44 単位、合計 84 単位以上

語学技能科目（必修科目 24 単位に加え、語学技能科目の中国語トラック科目群から選択 16 単位以上）

※留学先で修得した単位も語学技能科目として認められる場合がある。

グローバル・スタディーズ科目（44 単位必修。そのうち、中国語で開講される科目を 24 単位以上修得）

※44 単位の中に入学後に選択した専修が定める科目を 32 単位含める必要がある。留学先で修得した単位もグローバル・スタディーズ科目として認められる場合がある。

3. 日本語トラック

日本語トラックを選択した場合、卒業に必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、日本語を第一言語とする（または日本語が第一言語に準ずる）学生は、日本語トラックを選択することはできません。

■基礎教育科目：必修科目 10 単位、選択必修科目 6 単位以上、合計 16 単位以上

■専攻科目：語学技能科目 40 単位、グローバル・スタディーズ科目 44 単位、合計 84 単位以上

語学技能科目（必修科目 16 単位に加え、語学技能科目の日本語トラック科目群から選択 24 単位以上）

※留学先で修得した単位も語学技能科目として認められる場合がある。

グローバル・スタディーズ科目（44 単位必修。そのうち、日本語で開講される科目を 24 単位以上修得）

※44 単位の中に入学後に選択した専修が定める科目を 32 単位含める必要がある。

留学先で修得した単位もグローバル・スタディーズ科目として認められる場合がある。

4. トリリンガルトラック

入学前に選択した言語トラック（英語、中国語、または日本語）に加えて、入学後に別の

言語トラックの学修を行うことで卒業を目指します。なお、自分の第一言語（または第一言語に準ずる言語）を選ぶことはできません。

■基礎教育科目：必修科目 10 単位、選択必修科目 6 単位以上、合計 16 単位以上

■専攻科目：語学技能科目 48 単位、グローバル・スタディーズ科目 36 単位、合計 84 単位以上

語学技能（入学前に選択した言語トラックの必修単位に加え、2 年次以降はもう一つの言語トラックの必修単位を修得。選択科目は、2 つの言語トラックのいずれかの言語から履修）

※留学先で修得した単位も語学技能科目として認められる場合がある。

グローバル・スタディーズ科目（36 単位必修。受講言語は問わない）

※36 単位の中に入学後に選択した専修が定める科目を 32 単位含める必要がある。

留学先で修得した単位もグローバル・スタディーズ科目として認められる場合がある。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/policy.html）

（概要）

グローバル化が加速する今日の社会において、高度な外国語コミュニケーション能力を基盤として、自らが関わるコミュニティの様々な課題に向き合い、積極的に課題解決に取り組むことのできる人材が必要とされています。

GC学群では、その基礎となる高度な外国語運用能力を修得し、グローバル化した社会で増えている多文化が共存するコミュニティをよりよく機能させるために必要な専門知識を学びます。真の多文化共生社会を実現する過程で直面する問題や課題に対し、多角的な視野と専門知識をもとに思考と分析を行い、言語の壁を超えた高いコミュニケーション能力を生かして、コミュニティにおいて欠かせない存在として、課題解決に向け、共同作業の中で自己の役割を堅実に果たせる人材を育成します。

【求める学生像】

学群の教育理念に共感し、学修や経験を通して、成長を望む人たちを国や地域、背景を問わず求めます。

また、ここでの学びを始めようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

（1）高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者（特に外国語運用能力）

（2）自ら進んで学ぶ強い意欲と自立心を有する者

（3）世界の国・地域および自国に対して強い関心を有する者

（4）グローバル社会において積極的に学修や経験に挑戦する意欲を有し、多文化共生実現に強い関心と意欲を有する者

（5）建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 航空学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）

（概要）

航空学群航空学類は、卓越した英語力を有し、工学等の学問分野に裏打ちされた専門性の高い確かな知識と航空の基礎となる必須の知識と技倆を併せ持った航空の分野で活躍する人材の養成を目的とした教育等を行います。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/policy.html）

(概要) 本学群では、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（航空学）」を授与します。 (1) 倫理観 「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空の各分野で活躍できるジェネラリスト」としての社会常識やモラル、倫理観、マナーを備えること。 (2) 専攻する各分野における知識・理解と論理的思考力 航空を中心としたビジネスの基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、それぞれの専攻分野に関する高度な専門的知識や技倆を身につけ、航空分野における有用な人材となり得る能力を有すること。 (3) チームワークとリーダーシップ 自らとは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解が可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織の中で協調し、また中心的・中核的な存在として最後まで仕事をやり遂げることができること。 (4) 問題解決能力 ビジネスの現場において、日々発生する様々な問題や課題を感知し、失敗を恐れることなく解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、諦めることなく最後まで成し遂げることができること。 (5) コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解 航空の専攻各分野において求められる高い語学力を有すること。そのコミュニケーション能力を駆使して異文化を理解し、より広い視野に立ち、国際的なビジネスセンスを持って行動できるよう、弛まぬ努力を続けること。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/policy.html）
(概要) 本学群は「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組としての教育課程を「学群指定科目」「ガイダンス科目」「外国語科目」「学群共通科目」「専門基礎科目」「専門応用科目」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を展開しています。またカリキュラムの体系化のために「科目ごとの難易度等を示すナンバリング」を行い体系的な学修に役立つようにしています。本学群では航空に関連する様々な分野で活躍できる人材を育成するため、以下の基本方針をもとに、高い英語能力と高度な専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。 (1) 教育課程の編成 ①高い英語能力と高度な専門性を備えた人材の育成に向け、英語科目を3年次まで履修可能にし目標達成のために履修時間を確保します(フライト・オペレーションコースを除く)。専門性については航空界の世界標準ともいえる ICAO Annex 概論から各専門分野への導入を図っています。 ②国際性豊かな人材の育成に向けて本学群独自の2年次秋学期の海外研修を原則とし、提携先の大学において生きた英語を身につけると同時に、専攻に関連する授業、実習を受けられる多様な学修機会を提供しています。 ③航空の各分野を幅広く理解しそれぞれの専攻に活かすため、また本学群の卒業生が将来航空界の横糸を形成する存在になるために1年次は専攻コースに分かれることなく混成ク

ラスで横断的に航空の基礎を学びます。

「学群指定科目」

学群指定科目では、本学の教育目的として普遍的に必要な科目を中心に「キリスト教と異文化理解」「日本語表現Ⅰ」「情報リテラシー」について、本学群の学生が共通して履修する必修科目としています。

「ガイダンス科目」

航空関係に係る専門学修の入口となる「ICAO 概論」「航空法」及び、「アカデミックリテラシー」「キャリアデザイン」等の科目を配置しています。

「外国語科目」

本学群の学生全員に英語科目を必修とし、十分な学修量と学修時間を確保し TOEIC®IPT650 点を 1 年修了時の目標として国際化社会に対応できる英語の基礎を養います。2 年次秋学期の海外研修での実用海外英語の学びと体験を挟んで、3 年次では 4 技能（読む・書く・話す・聞く）のスキルアップを図れるカリキュラムを組んでいます。これらの科目では入学時のプレースメントテストや TOEIC®等の外部試験を活用したテストの得点を勘案した能力別クラス編成とします。また各コースに応じて必要な専門英語を学ぶ科目も設定しています。

「学群共通科目」

「航空管制概論」「飛行場概論」「航空機の仕組みと構造」等を必修としています。また海外研修中に行う科目として「フィールドワーク」を設定しています。

「専門基礎科目」

「航空気象Ⅰ」を必修とし「航空力学」「空中航法」をはじめヒューマンファクター、リスクマネジメント、リソースマネジメント等を学ぶ科目を配置し、すべての学生に幅広い知識を与え専攻分野に偏らない基盤を構築できるように設定しています。

「専門応用科目」

フライト・オペレーション、航空管制、航空機管理、空港管理という 4 つの科目群により構成されるこれらの応用科目を体系的に学修することによって航空分野を目指す人材として高い能力を養成します。

「専攻演習（ゼミ）」

隣接するコースの専攻演習とのコラボレーションも含め学生主体の様々な活動の中でリソースマネジメント、リーダーシップやフォロワーシップを理解し、アクティブラーニングを実践する機会となし、コミュニケーション能力を修得し、社会に求められる人材となるため、原則としてそれまでに学んだ学知の集大成となる論文・レポートを作成します。

（２）学修方法・学修過程

①1 年次には大学での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。各コースに分かれることなく航空学群として学んでおくべき幅広い基礎知識を修得します。加えて多角的視野を得ることを目標にした多くの授業の履修を通し、複眼的視野を育成します。

②2 年次春学期からは各専攻に分かれそれぞれの専攻科目を履修します。

③2 年次秋学期は米国での海外研修を原則としています。フライト・オペレーションコースはアリゾナ州フェニックスの桜美林学園フライト・トレーニングセンターにて飛行訓練を開始します。その他の 3 コースは航空産業の集積地であるシアトルにある 3 つの大学に分かれて英語能力の向上の他、各専門分野での知識と経験を獲得します。海外研修中の授

業についても、学生の語学レベルに合わせて履修するコースを用意し、レベルに合わせて言語運用能力の更なる向上を図ります。海外での研修・訓練を開始するには、TOEIC®IPT650点を超えることが求められています。

④外国語教育は基礎的な英語 4 科目を必修とするほか、4 技能の英語スキルを修得すべく十分な教育時間を確保しています。具体的には 3 年次終了時まで英語の履修を可能にし、加えて海外研修中も英語の授業を実施して卒業時には CEFR®B2 以上を目指します。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目とカリキュラムにより示された、科目の目標に関して履修者がどの程度到達したかを示すものです。したがって学修成果は科目夫々で設定されています。

②学修成果の評価方法は科目ごとのシラバスにおいて示されています。また科目によってはルーブリック評価（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した評価基準からなる表）などを取り入れることによって、成績評価をわかりやすく可視化し、厳格に評価します。

各コースの教育の目的とカリキュラムの特徴

グローバル化が進んだ現代の社会においては、航空産業は必須の産業で、その役割はますます重要になっています。日本においても毎年「観光ビジョン実現プログラム」が策定され、2030 年 6,000 万人の訪日観光客の達成に向けて様々な取り組みが行われています。航空交通の量が増えるにつれて、パイロットや管制、整備、運航を支える人材や、機能強化され民営化されていく空港の管理運営に携わる人材の育成が求められています。国際的な舞台上で活躍し、社会の役に立つ人を育てるという建学の精神に則り、更なる変革と競争の時代を迎えようとしている我が国の航空界が求める人材を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/policy.html）

（概要）

本学群は、「航空機の操縦」、「航空管制」、「航空機の整備管理」、「空港の運営」等、航空の各分野で活躍できるプロフェッショナルを育成することを目的としています。これらの分野で活躍するためには、航空工学、種々の法規程類を理解し、かつ高い語学運用能力を兼ね備える必要があります。さらに、経済、経営にも関心を持ち幅広く横断的な知識と高度な専門知識と技量を習得し、豊かなマネジメント能力が求められます。航空業界においてはグローバル社会に貢献できる人材を育成していきます。

【求める学生像】

本学群では、この教育の考えに共感し、学群での学修や経験を通して、成長を望む人たちを求めます。また、ここでの学びをはじめようとする人たちには、以下の素養を身につけておくことを求め、各選抜において、その資質をはかります。

（1）高等学校までに身につけておくべき基礎学力を有する者（特に、外国語運用能力と数理科学に関する基礎的な知識・技能）

（2）自ら進んで学ぶ強い意欲と自律心を有する者

（3）グローバルな社会の出来事、航空業界、国や地域、関連する産業界等の取り組みに強い関心を有する者

（4）社会と積極的に関わりを持ち、様々な課題に対して挑戦する意欲を有する者

（5）建学の理念を理解し、他者に奉仕し、ともに向上する意欲を有する者

学部等名 教育探究科学群

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/education_research.html#anc_01）

(概要) 教育探究科学群教育探究科学類は、教育学の豊かな知見に基づき、人間のかつ社会的な諸課題を学術的探究方法によって解決できる知識及び技能を修得し、人や組織の成長のためにリーダーシップを発揮できる人材の養成を目的とした教育等を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.obirin.ac.jp/academics/cest/policy.html#）
(概要) 本学群は、教育学の豊かな知見に基づき、人間のかつ社会的な諸課題を解決できる知識及び技能を修得し、人や組織の成長のためにリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的としています。こうした人材を養成するため、本学群では所定の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を満たした上で、次に示す能力及びスキル並びに態度を有した者に学位を授与します。 ① 社会的リテラシー 予測困難な時代において、社会の動向を読みとき、未来を見据える能力を備えること。 (a) 教育・社会問題への関心 (b) 情報収集能力とメディアリテラシー (c) 批判的思考力 ② 探究力 リサーチを通して社会の諸問題や自らの関心テーマについて探究し、新たな知や価値を創造して発信する力を備えること。 (a) 観察・調査・分析する力 (b) レジリエンス (c) 倫理観 (d) オリジナリティをもって知や価値を構築・創造する力 (e) 発信・表現する技術と能力 ③ 実践力 社会の諸問題を解決するために、探究したことを基に教育学的方策を具体的に構想し、他者ととともに実践する能力を備えること。 (a) 主体性と責任感、使命感 (b) 企画・構想する能力 (c) コミュニケーション力・協調性・協働する力 (d) 巻き込む力（リーダーシップ）とコーディネーション力 (e) 対立やジレンマを克服する力 ④ 自己形成力 探究や実践のプロセスにおいて状況から学び、自己を更新・形成する能力を備えること。生涯に亘って学び続ける能力を備えること。 (a) 自己肯定感 (b) 自律性 (c) 状況的学習力（状況から学ぶ力） (d) 省察する技術と能力 (e) 生涯学習力 ⑤ 社会力 認知だけでなく情動や五感も通して学び、諸問題を解決するための社会づくりに参加する

能力を備えること。

- (a) 共感する力
- (b) バックキャスト思考・フォアキャスト思考
- (c) 社会参加する力
- (d) 市民性
- (e) 他者や社会に働きかける力

⑥ 教育学に関する専門知識

教育学に関する専門知識・技能を備えること。

- (a) 教育社会学
- (b) 教育心理学
- (c) 教育関連諸科学

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.obirin.ac.jp/academics/cest/policy.html#>）

（概要）

本学群は、教養系科目を中心に構成される「基礎科目」と、教育学並びに探究科学に関する「専攻科目」の2つを設定しています。「基礎科目」は、大学の1年次に主に履修する「ガイダンス科目」、本学群が独自に指定する「学群指定科目」、語学学習科目の「語学技能科目」にて編成されています。「専攻科目」は、本学群の対象とする教育学を扱う「教育学科科目」と「教育関連諸科学科目」を中心に、ゼミナールや卒業研究等において探究を用いる学習活動からなる「探究科学科目」で構成しており、本学群の専門性を体現するものとなっています。「基礎科目」は大半の科目が1年次に履修をする科目となっており、基礎を踏まえた上で主に2年次以降の「専門科目」を履修し、本学群における体系的な学びを実現できるよう配置しています。

（1）教育課程の編成

1）基礎科目

「基礎科目」の科目区分は「ガイダンス科目」、「学群指定科目」、「語学技能科目」からなり、本学学生として卒業認定や学位授与の方針に則った学修成果をあげるための基礎的な知識や技能を修得する科目で構成しています。

「ガイダンス科目」においては、「教育学入門」や「生涯学習入門」、「社会教育入門」、「基礎ゼミナールⅠ～Ⅳ」など、本学群における入門科目を配置し、2年次以降に配置している専門的な科目の履修に備える科目構成としています。

「学群指定科目」は、建学の精神に関する「建学の精神と自己形成」や、Society5.0の社会を迎えるにあたって必須となる「ICTの活用」や「メディアの活用」、さらには自らのキャリアについて理解を深める「自己探求とキャリア形成」などを配置しています。これらはいずれも1年次に実施する科目としています。

「語学技能科目」では、付加言語としての英語（EAL）コミュニケーション能力育成に重点を置いた教育を展開します。

2）専攻科目

「専攻科目」の科目区分は、「教育学科科目」、「教育関連諸科学科目」、「探究科学科目」の3つから構成しています。

「教育学科科目」は、「教育哲学」や「教育史」などの教育学の専門的な授業科目をはじめ、教育社会学、教育心理学、教育工学に関する授業科目を設定しています。また、本学群の学びのコンセプトである「教えて、学ぶ」を理解し、実践する「ピア・ラーニング実践研究」などの授業科目や、社会教育士や社会調査士の資格取得に関わる授業科目についても含んでいます。

「教育関連諸科学科目」では、教育学のさらなる理解や探究科学の対象を明確にする観点から、「共生社会」をはじめ、「持続可能な開発のための教育論」、「環境教育」、「開発教育」、「カリキュラム開発」、「複言語学」などの授業科目を設定しています。すべての

授業科目を選択科目としていることから、学生は自らの興味関心に基づき当該科目の授業科目を履修していくことができる仕組みになっています。

「探究科学科目」は、探究手法を用いた学びを展開する授業科目で構成し、ゼミナールや卒業研究をはじめ、国内外のフィールドワーク、学群における学びの質を保証する「キャップストーン」などで構成しています。また、基礎科目において展開する「自己探求とキャリア形成」をより発展的に行い、自らのキャリアを俯瞰しつつより深く検討していく授業科目も含まれています。

(2) 学修方法・学修過程

科目の基本的な運営方針は、本学群のコンセプトを軸に、学生間の教え合いと学び合いをはじめ、グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングを中心とします。前提となる知識を学ぶ科目においても「教えて考えさせる」ことでの意味理解を重視します。さらに、学習者中心のコミュニティと文化を構築するため、一定の基準で選抜した学生 TA 等を授業に配置し、重層的な教育学習支援を普遍的なものとしします。

また、授業方式については、対面による授業を中心にしつつ、科目の特性や教授内容に応じ、教室内での学びだけにとらわれることなく、オンライン、オンデマンド、ハイブリッドなどの方式を採用し、Society5.0 の社会において必要な PC スキルやデジタルツールを実践から獲得し、卒業後も自律的かつ効率的に学び続けられる習慣を身に付けられるようにします。

(3) 学修成果の評価の在り方

本学群の掲げるディプロマ・ポリシーをはじめとする到達目標を達成するため、「GPA 制度」を用いた評価制度や「CAP 制」による知識・技能の実質化に加えて、2 年次の最終クォーターにこれまでの学習成果を把握し、3 年次以降の専門的な学習への準備を行う科目「キャップストーン」や、全ての学生に必修とする「卒業研究」など、本学群として目指す到達目標に合致しているかどうかを明確にする仕組みを整えています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.obirin.ac.jp/academics/cest/policy.html#>）

（概要）

本学群は、ディプロマ・ポリシーへの到達によって、生涯を通じて営まれる種々の教育的活動を通じ、自らの探究心と好奇心をもとに社会を改善していく者の育成を目指しています。卒業後に所属する組織や企業においては、教育学的指向と探究科学の手法を活かし、人、物事、アイデア、組織などをつなぐ共創型のファシリテーション機能を持つことを期待されています。

授業においては、自らの探究心や好奇心に基づく意思決定の機会が多く、また、「学びあい、教えあい」のコンセプトのもと、自らが学ぶだけでなく、他者に教えることによって学んでいくため、自他の成長への関心を持っている必要があります。

【求める学生像】

本学群は、学群の価値観や文化に共感する者を求めており、その選抜においては、以下の資質や能力をはかります。

- (1) 関心意欲が高く、色々な物事に興味関心を持てる好奇心を有する者
- (2) 主体的に学習に取り組む態度を有する者
- (3) 「学びあい、教えあい」のコンセプトや、自他の成長や変化への関心を有する者
- (4) 教育的活動を通じ、社会を良くしたいという意欲を有する者
- (5) 探究的な学びへの関心を有する者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.obirin.jp/disclosure/?id=anc01>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
リベラルアーツ学群	－	51 人	34 人	6 人	1 人		92 人
芸術文化学群	－	14 人	9 人	7 人	2 人	6 人	38 人
ビジネスマネジメント学群	－	19 人	13 人	4 人			36 人
健康福祉学群	－	18 人	13 人	2 人	5 人		38 人
グローバル・コミュニケーション学群	－	10 人	8 人	2 人	2 人		22 人
航空学群	－	9 人	8 人	2 人		1 人	20 人
教育探究科学群	－	5 人	3 人		2 人		10 人
大学院	－	13 人	4 人	1 人			18 人
附属研究所	－			1 人			1 人
通信教育	－	3 人					3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
		678 人					678 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学 WEB サイト https://gproweb1.obirin.ac.jp/obuhp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2025 年 3 月 28 日に全教職員を対象とした全学 FD/SD を実施した。 FD の内容としては、授業等の魅力を高めるための手法例、授業等における教員のトラブル防止のための留意点について、それぞれ学内の教員から取り組み内容についての報告がされた。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
リベラルアーツ学群	900 人	1,017 人	113.0%	3,650 人	4,088 人	112.0%	人	15 人
芸術文化学群	400 人	432 人	108.0%	1,600 人	1,624 人	101.5%	人	13 人
ビジネスマネジメント学群	480 人	499 人	104.0%	1,920 人	2,160 人	112.5%	人	13 人
健康福祉学群	300 人	337 人	112.3%	1,200 人	1,352 人	112.7%	人	7 人
グローバル・コミュニケーション学群	250 人	307 人	122.8%	1,000 人	1,029 人	102.9%	人	5 人
航空学群	140 人	145 人	103.6%	560 人	489 人	87.3%	人	0 人
教育探究科学群	150 人	149 人	99.3%	450 人	346 人	76.9%	人	0 人
合計	2,620 人	2,886 人	110.2%	10,380 人	11,088 人	106.8%	人	53 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
リベラルアーツ学群	823 人 (100%)	30 人 (3.6%)	670 人 (81.4%)	123 人 (14.9%)
芸術文化学群	328 人 (100%)	9 人 (2.7%)	214 人 (65.2%)	105 人 (32%)
ビジネスマネジメント学群	463 人 (100%)	21 人 (4.5%)	377 人 (81.4%)	65 人 (14%)
健康福祉学群	250 人 (100%)	14 人 (5.6%)	216 人 (86.4%)	20 人 (8%)
グローバル・コミュニケーション学群	156 人 (100%)	4 人 (2.6%)	129 人 (82.7%)	23 人 (14.7%)
航空学群	110 人 (100%)	0 人 (0%)	96 人 (87.3%)	14 人 (12.7%)
教育探究科学群	0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
合計	2130 人 (100%)	78 人 (3.7%)	1702 人 (79.9%)	350 人 (16.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【LA】 : https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/career.html				
【GC】 : https://www.obirin.ac.jp/academics/global_communication/career.html				
【BM】 : https://www.obirin.ac.jp/academics/business_management/career.html				
【健福】 : https://www.obirin.ac.jp/academics/health_welfare/career.html				
【芸文】 : https://www.obirin.ac.jp/academics/performing_visual_arts/career.html				
【航空】 : https://www.obirin.ac.jp/academics/aviation_management/career.html				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
リベラルアーツ学群	965 人 (100.0%)	714 人 (74.0%)	88 人 (9.1%)	110 人 (11.4%)	57 人 (5.9%)
芸術文化学群	390 人 (100.0%)	277 人 (71.0%)	37 人 (9.5%)	54 人 (13.8%)	21 人 (5.4%)
ビジネスマネジメント学群	493 人 (100.0%)	391 人 (79.3%)	49 人 (9.9%)	23 人 (4.7%)	23 人 (4.7%)
健康福祉学群	280 人 (100.0%)	231 人 (82.5%)	17 人 (6.1%)	22 人 (7.9%)	10 人 (3.6%)
グローバル・コミュニケーション学群	202 人 (100.0%)	125 人 (61.9%)	15 人 (7.4%)	26 人 (12.9%)	38 人 (18.8%)
航空学群	123 人 (100.0%)	107 人 (87%)	2 人 (1.6%)	8 人 (6.5%)	8 人 (6.5%)
合計	2,453 人 (100.0%)	1,845 人 (75.2%)	208 人 (8.5%)	243 人 (9.9%)	157 人 (6.4%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業担当教員がシラバスを登録した後、各教育組織長が点検を行う。 点検終了後、ポータルシステム「e-Campus」およびウェブサイトにて公開する。 3月に翌年度春学期および秋学期のシラバス登録期間を設け、各教育組織長点検後、3月末に公開する。3月の時点で担当者が決定していない秋学期の授業、または秋学期の内容に変更が生じた授業のシラバスについては7月に登録期間を設け、各教育組織長点検後、8月末に公開する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。 卒業するためには、原則として4年以上在学し、所属する学群で定めるところにより124単位以上を修得し、かつGPAが1.50以上であることを必要とする。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
リベラルアーツ学群		124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位
芸術文化学群		124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位
ビジネスマネジメント学群	アビエーションマネジメント学類	124 単位	⑦・無	学期毎 16～24 単位

健康福祉学群		124 単位	㊥・無	学期毎 16～24 単位
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	124 単位	㊥・無	学期毎 16～24 単位
航空学群	航空・マネジメント学類	124 単位	㊥・無	学期毎 20～28 単位
教育探究科学群	教育探究科学類	124 単位	㊥・無	学期毎 16～24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.obirin.ac.jp/about/grade_point_average.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：(セメスター・早期卒業制度) https://www.obirin.ac.jp/about/semester_early_graduation.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.obirin.ac.jp/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	施設設備 整備費	実験 実習費	教育 充実費	合計
リベラルアーツ学群		914,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,364,000 円
芸術文化学群		1,114,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,564,000 円
ビジネスマネジメント学群		914,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,364,000 円
健康福祉学群		1,034,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,484,000 円
グローバル・コミュニケーション学群		914,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,364,000 円
教育探究科学群		980,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,430,000 円
航空学群	航空管制、航空機管理、空港管理コース	1,204,000 円	100,000 円	300,000 円	0 円	50,000 円	1,654,000 円
	フライト・オペレーションコース	1,204,000 円	100,000 円	300,000 円	1,200,000 円	50,000 円	2,854,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) https://www.obirin.ac.jp/about/why_obirin.html

b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・全学生に対してキャリアアドバイザーによる個別の進路支援を実施 ・業界研究セミナーや学内合同企業説明会・就職スキルアップセミナーなどの就職支援イベントを開催 ・キャリア教育の一環として1年次～3年次まで「キャリアデザイン」の授業を開設し、授業とイベント、個別支援を連携させている
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 心の支援として、町田キャンパスでは、パート事務職員、常勤・非常勤カウンセラー(臨床心理士・公認心理師等)、非常勤学校医(精神科)を配置し、週5日午前9時から午後5時に学生相談室を開室。他2キャンパスでは、非常勤カウンセラー、非常勤学校医(精神科)を配置し、週3日学生相談室を開室。他1キャンパスでは、非常勤カウンセラー1名を週1回配置し、学生相談室を開室。個別カウンセリングによる学生のメンタルヘルス支援を行う他、学内外機関や保護者と連携・協働しながら、学生の学修・学校生活における心理支援を行っている。その他年に1回、学生全体のメンタルヘルス向上を目指し、外部講師招致講演会を開催。 身体の支援として、町田キャンパス保健室に看護師4名を配置し、他3キャンパス保健室には看護師1名ずつを配置している。学校医が各キャンパスを巡回し、学生の安心、安全な学生生活を支援している。 (学生健康診断および健康相談) 健康診断実施後、二次検査が必要な学生は面談で受診指示などの保健指導を、またBMI低値の学生にも面談および保健指導を行うなど健康管理を実施している。入学時の健康状態調査や日頃から身体に関する不安や心配に対し、内科学校医、看護師が健康相談を行っており、傷病対応だけではなく身体に関するあらゆる支援を行っている。 (感染症対策) 入学時に麻しん・風しん・MR(麻しん風しん混合)ワクチン接種歴調査を行い、2回のワクチン接種が完了していない学生に対し、接種勧奨を行うなど感染症拡大防止対策を実施している。学校において予防すべき感染症に罹患時は、登校停止基準に則り療養し、登校再開時に登校許可証を確認のうえ授業へ復帰する支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.obirin.ac.jp/about/information_disclosure/menu.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310103698
学校名（〇〇大学 等）	桜美林大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人桜美林学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		916人（35）人	866人（32）人	969人（45）人
内 訳	第Ⅰ区分	557人	500人	
	（うち多子世帯）	（人）	（人）	
	第Ⅱ区分	184人	199人	
	（うち多子世帯）	（人）	（人）	
	第Ⅲ区分	137人	125人	
	（うち多子世帯）	（人）	（人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	－	－	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				973人（45）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	22人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	20人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	51人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	40人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	137人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	—	人	人
計	156人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。